

北九州PCB処理事業について

1 北九州PCB廃棄物処理施設の操業状況について

- 処理の進捗は、北九州事業エリアで約9割、その他の事業エリア（東京、豊田、大阪）については、長期処理計画に沿って順次処理予定。
- 処理の安全性の確保については、長期安全計画に沿って安全対策を実施。また JESCO 全事業所で発生した過去のトラブル事例における防止対策を水平展開（北九州事業所においては、平成25年5月以降トラブルは発生していない）。
- 環境モニタリング結果は、基準値に適合。

(1) PCB廃棄物処理の進捗状況

各事業エリアの受入状況（平成16年12月～平成27年6月末現在）

事業エリア		北九州事業エリア	拡大受入分		
			東京事業エリア (コンデンサ)	豊田事業エリア (車載トランス)	大阪事業エリア (安定器等汚染物)
項 目					
トランス類	搬入台数①	2,590台	—	0台	—
	登録台数	2,741台	—	150台	—
	処理対象台数②	3,095台	—	約150台	—
	受入率 ①/②	84%	—	0%	—
	残見込量②-①	505台	—	150台	—
コンデンサ類	搬入台数①	46,498台	1,018台	—	—
	登録台数	48,773台	7,000台	—	—
	処理対象台数②	50,085台	約7,000台	—	—
	受入率 ①/②	93%	15%	—	—
	残見込量②-①	3,587台	5,982台	—	—
安定器等汚染物	搬入重量①	2,552t	—	0t	5.3t
	登録重量	2,801t	—	428t	503t
	処理対象重量②	2,828t	—	約4,000t (ただし缶重量を除く)	—
	受入率 ①/②	90%	—	0.1%	—
	残見込量②-①	276t	—	約3,995t	—

※ 北九州事業エリアの処理対象量は、平成26年3月末現在。他のエリアの処理対象量は国の要請に基づくもの。

(2) 環境モニタリングの結果

資料1

PCB廃棄物処理施設の周辺環境及び排出源で環境モニタリングを実施したところ、直近のいずれの測定値も基準値に適合していた。

2 PCB廃棄物処理の早期処理に関する対応について（経過報告）

- PCB廃棄物処理の早期処理に向けて国と協議を重ねており、本市受入条件のうち着手できるものから、国において順次取組みを実施
- 併せて本市は、関係自治体に対する取組強化の要請など、独自に取組みを実施

（１）早期処理に向けた国の取組み

- 未処理のPCB使用機器の保有者台帳を作成するための掘り起こし調査マニュアルを策定し、都道府県市担当者説明会において周知。
- 全国113都道府県市に対し、PCB廃棄物の掘り起こし等に係る意向調査を行うとともに、期限内処理に向けて指導。 資料2
- JESCO処理施設に係る地元自治体、電気保安関係事業者関係団体、経済産業省及び環境省で構成する「PCB廃棄物早期処理関係者連絡会」を開催。今後、PCB処理地域ごとに地域版の連絡会の開催に向けて調整。 など

（２）本市の取組み

- 広域協議会等を通じて、国や関係自治体に対して早期の処理完了に向けた取組強化を要請するとともに、本市の経験・ノウハウ（北九州方式）の水平展開と進捗を把握。
- PCB処理が安全かつ早期に処理が行われるよう、本市の処理計画の改訂や要綱の策定、JESCOとの環境保全協定の変更など体制を強化。
- 北九州市PCB処理監視会議の監視事項の拡充と監視委員の増強により、安全性、早期処理及び地域の理解に関する取組状況を幅広く監視。
- 「北九州市 環境・コミュニティセンター」や「PCB処理に関する情報サイト」 資料3 を開設し、PCB処理に関する情報を市民や関係事業者に向けて発信するとともに、昨年に引き続き、「環境先進地域見学ツアー」の開催に向けて調整。 など

以上